

医療安全管理室 発刊 2024年2月 VoL.50
医療安全推進情報 広報「安進くん」

<第2回医療安全管理研修会> **安全文化の醸成!**

11月17日-12月17日の期間、セーフティープラスにて動画による医療安全管理研修を実施しました。
 全職員数 645名に対し、視聴者数は 623名で 97%の視聴率でした。
 医師(研修医を含む)89人中 71名で 80% 看護部(看護補助者含む)375名中 375名で 100%
 病院管理課 18名中 17名で 94% 医事課 40名中 37名で 93%
 薬剤部・放射線科・リハビリテーション科・臨床工学科・その他コ・メディカル・病院施設課は 123人中 123名で 100%
 テーマ別視聴人数は、
 ① スキンテア:「最新の研究に基づくスキンテアの発生予防と発生時のケア」:206名
 ② Shared Decision Making:「Shared Decision Making:患者さんの思いを組み入れるための医療情報」:52名
 ③ 医療者としての倫理観:「いかに生きるか ~いのちとは何か~」:216名
 ④ 多様性:「多様性のマネジメント:Diversity,Equity,and Inclusion の視点から」:80名
 研修の理解度アンケートでは、回答者数は 529名 良く理解できたが 194名で 37% 理解できたが 320名で 60%
 どちらともいえないが 15名で 3% でした。
 今回は、日本医療機能評価機構 PSP 教育動画視聴の研修会で、4つのテーマから各自が自分の興味のあるテーマを選択して視聴する形式でした。
 研修を視聴した職員さんからは、とても良い内容の研修だったとの意見が寄せられました。

<医療安全活動>

【ImSAFER 研修会】

【日時】令和6年1月13日(土)9時00分~12時30分
 【場所】沼津市立病院 2階講堂
 【講師】ImSAFER研究会 シニアインストラクター 春日道也先生
 【参加者】1. 職種 医師0名 看護師24名 コ・メディカル7名 事務3名 合計34名
 【研修目的】インシデント・アクシデント報告事例において、ImSAFER分析手法を用いて再発防止策を立案できる。
 【研修目標】1. 人間の行動を理解する。2. ImSAFER分析手順が理解できる。3. エラー対策の考え方を学ぶ。
 【アンケート結果】

- 1. 研修内容は理解できましたか?
 ① よく理解できた 69.7% ② まあまあ理解できた 30.3%
- 2. 今後の仕事に役立つと思いますか?
 ① とても役立つ 81.8% ② まあまあ役立つ 15.2%
- 3. 研修内容は今後活かせると思いますか?
 ① 活かせる 82.8% ② まあまあ活かせる 15.2%



<教えて! あなたの職場の医療安全> =救命救急センター=

日頃より、救命救急センターの業務に対して、ご協力ありがとうございます。救命救急センターでは、心肺停止や外傷など、生命の危機的な状況における患者様が、昼夜問わず様々な状態で搬送されてきます。どのような事態でも対応できるよう、日々BLS・ICLSのスキルトレーニングを行っています。また放射線科ではアナフィラキシーショックなど起こり得るため放射線スタッフと共にシミュレーションを行っています。

【放射線科・内視鏡】

関東内視鏡技師学会に参加して、用手腹部圧迫法についての講義を受講し伝達講習をしました。
 大腸は、固定されていてカメラが進みやすい部位と、可動性に富みカメラが進みにくい部位があり、カメラが進みにくい部位は医師の指示のもと適切な方法で腹部を圧迫すること(用手腹部圧迫法)でカメラの進みを援助することが出来ます。適切な方法で圧迫をすることで、患者様へのカメラによる苦痛の軽減ができるため、内視鏡スタッフに伝達し安全に介助ができるよう知識を共有しています。



【救命救急センター】

救急の現場では、チームワークが最も重要なため、医師・看護師だけでなく、救急隊やMSWなど多職種と関わります。中でも、救急隊とは、医療の質を担保するため、日頃からシミュレーションを行い、コミュニケーションを密にします。さらに2日に1回の小児科待機病院のため、小児の重症例も受け入れています。専門性の高い医療を提供するために、小児科医師とも協力し、シミュレーションを行い、迅速に対応できるよう努めています。

